

台風 9 号の接近に伴う農作物及び施設等の技術対策

平成 22 年 9 月 7 日

農業技術課

1 共通

- (1) 台風の接近に備え、ハウスや畜舎等の農業用施設、棚や支柱、防風ネット等の点検、補修を行う。
- (2) ほ場の周囲等に明きょ等の排水対策を講じる。
- (3) 滞水しやすいほ場にある機械や資材等は早めに移動する。
- (4) 長野地方気象台等による、最新の台風情報や土砂災害警戒情報に留意し、危険を伴うほ場の見回り、作業等は極力避ける。
- (5) 農薬散布に当たっては、農薬使用基準を遵守する

2 水稲

- (1) 今後も高温が予想されているので、落水後であっても収穫まで間がある場合は、走り水の実施により、ほ場が乾きすぎないように注意する。
- (2) 浸水、冠水した水田は、風が治まり次第速やかに排水する。
- (3) 倒伏した水田は風のやむのを待って早急に排水し、引き起こし茎葉の腐敗や穂発芽を防ぐ。
- (4) 架干しは、倒れないように補強するとともに、倒れた場合は早急に立て直し、乾燥を促して穂発芽を防ぐ。
また、刈り遅れないように留意し、急速な乾燥調製を避け胴割れ米の発生を防ぐ。

3 果樹

- (1) 強風に備えて、防風ネットの点検、樹体への支柱の追加、主枝の固定等を再度行う。
特に、腐らん病等の障害部は折れやすいので、しっかり固定する。
また、3～6年生程度の若木は倒伏しやすいので、主幹部に支柱を添えたりトレリスの固定を確認する。養成中の苗木についても、倒伏防止のため支柱を立て、苗木を固定する。
寒冷紗等は、強風による飛散・破損を防ぐために巻き取りまたは撤去する。
- (2) 収穫直前のりんご、なし、もも、ぶどう、ブルーベリー、プラム等は、JA や集出荷業者等と十分協議の上、収穫可能な品質に達している果実を収穫する。
なお、収穫に当たっては農薬使用基準（収穫前日数）を遵守するとともに、未熟果は収穫しないようにする。
- (3) 棚果樹（なし、ぶどう等）については、棚の周囲に防風ネット等を張り、風による果実の落果や枝の損傷を防ぐ。
また、棚の上下動に伴う枝の損傷や果実落果を防ぐために、アンカーの補強、棚線の締め直し、ゆるんだ誘引部の補強等を行う。特に A マストの棚は、強風により棚全体が上下動しやすいので、アンカーを入れ引き張り線を 4 方向に張るとよい。

4 野菜、花き

- (1) 露地のきゅうり、アスパラガス、ながいも、花き類(きく、りんどう、ゆり等)などは支柱の補強やフラワーネットの補修を行い、強風による倒伏と茎葉等の損傷を防ぐ。
- (2) 滞水しやすい圃場では、畑の周囲へ排水溝を設置して早期排水に努める。
- (3) 強風や強い雨により病害の発生につながるので、台風が過ぎたら速やかに殺菌剤の散布を行う。

5 園芸用施設

- (1) 強風に備えて、ハウス破損部の修理、支柱・筋交い等の補強を行う。
特に、被覆フィルムが飛ばされないよう、らせん杭やマイカー線、フィルム止め具の点検を行う。収穫物がある施設では、周囲に排水溝を設け増水による湛水害を防ぐ。
- (2) 原則として、サイドビニールのあるパイプハウスでは、サイドビニールを下ろし、妻部分もビニールで覆って、すきま風が入らないようにする。ただし、日中気温の高い状態ではハウス内の作物を優先させて開放とする。台風通過後は、速やかにハウス内の換気を図る。
- (3) 使用予定のないハウスは、被覆資材(フィルムやネット等)を取り外して風圧による倒壊を防ぐ。
- (4) 強風により倒壊が心配される場合は、最終手段として被覆フィルムを切り裂き、風圧を軽減する手段も検討する。ただし、強風の中の作業は大変危険なので、安全性に十分配慮して作業を行う。

6 畜産

- (1) 畜舎および窓は破損しないように筋交い等によって補強する。
- (2) ハウス畜舎、堆肥舎は破損部の補修、支柱、筋交い等の補強を行い倒壊を防ぐとともに、周囲に排水溝を設ける。
特に強風によりフィルム(ビニール)が飛ばされないよう、マイカー線の点検を行う。
- (3) 停電により、搾乳機やバルククーラーの電源確保のための発電機の入手については、JA等関係団体と連携をとり対応する。

7 菌茸

- (1) 停電により室温と外気温の差が大きい場合は、短時間であればドアの開閉を控える。
- (2) 停電が長時間に渡る場合は、施設内の温度上昇に留意して適宜、換気を行う。
- (3) 施設が浸水した場合は次によること。
 - ・電気設備は、起動前に十分な点検を行い、漏電事故が発生しないよう注意する。
 - ・収穫できるものは、早めに収穫、包装する。
 - ・生育中の水のかかった生産物は速やかに施設外へ搬出し、処分する。
 - ・室内の浄化を図るため、施設を空にして水で泥等を洗浄する。
- (4) 洗浄後は、除菌剤(0.1~0.05%次亜塩素酸ナトリウム)を散布し、乾燥する。
オゾンガス発生装置がある場合は、オゾン処理方法に従って除菌する。
- (5) 次亜塩素酸ナトリウム散布直後の培養基の搬入は、発生不良となる場合があるので、十分換気してから搬入する。